

新日本消防会館の建設について

(公財)日本消防協会

新しい日本消防会館の建設については、役員会等で協議を重ね、必要な都度、検討の状況、進捗の状況を全国にお知らせしていますが、この程、完成後の姿を含めて新しい会館の概要をお知らせすることができる段階になりましたので、平成31年3月5日、これをお知らせしながら、新会館のあり方を中心とするシンポジウムを開催しました。ここで、シンポジウムの際配布しました資料のうちご参考になると思われます主要事項をお知らせします。

1 シンポジウム「これからの日本消防と新日本消防会館」

- (1) 日 時 平成31年3月5日（火）14：20～15：35
- (2) 場 所 日本消防会館「ニッショーホール」
- (3) 趣 旨

近年、災害の様相が大きく変化し、また、社会環境も人口減、少子高齢化や地域構造の変容があり、消防防災活動はこれらの変化に的確に対応しなければなりません。このことをこれから の課題と認識して、昨年3月、自治体消防70周年に当たり、巾広い方々のご参加によるシンポジウム「日本消防会議」を開催し、さまざまご意見を頂きました。これからの日本消防は、こうした状況を背景として、さらなる充実発展をめざします。

その際、今、新たに建設を進めている新日本消防会館は、これからの日本消防の一層の発展に、そして各地の消防機関の運営主体でもあり、地域社会の中核でもある市町村の益々の発展に寄与することができるものでなければなりません。その実現のためには何を考え、何を実行しなければならないかについて、今も検討していますが、さらに巾広いご意見を頂き、よりよい新会館にしなければならないと思っています。

以上のような趣旨のもと、シンポジウムを開催します。

(4) 出席者

○コーディネーター

日本消防協会会长

秋本 敏文

○パネリスト

消防庁次長

横田 真二

日本消防協会副会長 東京都消防協会会长

沖山 仁

前東京消防庁消防総監

高橋 淳

岐阜県多治見市長

古川 雅典

熊本県御船町長

藤木 正幸

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長

室崎 益輝

2 新日本消防会館の建設計画

(1) 新日本消防会館の概要

築後約40年を迎える、一部、老朽化、耐震補修の必要性が見えてきた現在の日本消防会館については、周辺の再開発の動きの中で、屋上の消防殉職者慰靈碑の取り扱い等を含めて種々検討の結果、単独改築を進めることとした。

笹川良一元日本消防協会会长のお力で建設され、今日まで日本消防の発展に貢献してきた現会館を改築するに当たっては、その歴史を引き継ぎ、これから日本消防の発展に寄与することができるものにしなければならない。このことを基本にして、消防関係の方々、市町村長さん方のご意見を伺いながら新しい会館のあり方について検討し、新日本消防会館は、次のようなものとすることを考えている。

新会館は、これまでと異なる様相の災害が多発し、少子高齢化、地域社会の変容など社会環境も変化する中で、地域の皆さんとともに地域の安全を確保する一層強固な消防体制づくりに貢献することができる日本消防の総合的な中核拠点としなければならない。

具体的には次のような事項の実現をめざす。

- 幅広い消防防災関係者の集結拠点とする。
- 幅広い消防防災関係者の情報交流、これを活かした連携協力、日本消防総合力の向上をめざす。
- 消防関係者はもとより、一般国民の皆さん、青少年など幅広い方々に対する消防防災の情報発信拠点とし、消防防災に対する皆さんのがん心の向上等を進める。
- 消防防災関係者の研修拠点のひとつとする。
- 消防殉職者の慰靈碑の安置などにより、消防関係者の精神的な中枢とする。

また、消防機関の運営主体でもある市町村の一層の発展に寄与するため、次のような事項の実現をめざす。

- 立地条件の良さや新会館の多様な会議室等を活用して、市町村自治関係者の会議等の便宜を図る。
- 市町村職員の消防防災関係研修に協力し、市町村防災体制の一層の強化に寄与することをめざす。

(2) 建物概要

- ・延床面積 約16,000m²（地上13階、地下2階）
- ・構 造 S R C 造（一部R C 造）
- ・階層構成 1階… 日本消防防災情報センター、エントランス等
2階… 多様な会議室、ホワイエ
3階～5階… ニッショーホール（1階席、2階席で1,000席）
6階～12階… オフィス（13階は機械室等）
屋上… 全国消防殉職者慰靈碑

(3) 整備スケジュール（想定）

2019年5月 都市計画提案

2019年11月 都市計画決定

2020年12月 既存躯体解体～建設工事

2024年1月 竣工

（注）以上については現段階での想定であり、関係機関との協議の結果などにより、今後変更があり得る。

(4) 新会館建物イメージ

銀座線虎ノ門駅方面（1009号線側）から



外装構成



日本消防防災情報センター内（1階）



ホール客室イメージ



全国消防殉職者慰靈碑(屋上)



(5) 日本消防防災情報センターの概要

日本消防防災情報センターについては、消防庁の皆さんにもご参加頂いて整備のための委員会を設置し、ご協議を進めているが、現時点での基本的なイメージ（案）は次のようなものである。

① 新日本消防会館のシンボル的施設のひとつ

- 日本消防防災の総合的な情報を提供する施設とし、消防防災体制の一層の充実、国民の安全向上に資するものとする。
- 消防防災関係者はもとより、青少年を含む幅広い人々の利用を想定する。
- 従って、基礎的な情報のほか、専門的な高度な情報まで幅広く提供することをめざす。
- 写真パネル等のほか、多様な映像システムを最大限活用する等して、限られたスペース、限られた管理体制のなかで、情報センター機能の充実を図る。
- 展示のリニューアルを適時に行い、状況変化に対応した情報センターの魅力向上に努める。
- 情報センターの存在、機能のPRに努める。またインターネットによるアクセスも可能となるようにする。

② 日本消防防災の重要情報を提供

- 消防体制の発展、課題
 - ・江戸時代の火消システム以後、今日までの変遷
 - ・消防団設置、常備化進展、地域総合防災力の強化への具体的な発展
 - ・消防体制の今後に向けての課題
 - ・新会館完成時が消防団130年・自治体消防75周年であることの周知
- 消防防災に関する研究開発の動向
 - ・新たな技術開発等さらなる発展への研究開発
- 消防防災装備の発展、課題
 - ・装備改善の経過
 - ・新装備開発の動向、課題

③ 火災、自然災害の発生及びこれに対する消防機関等の対応に関する経過

- 大規模な火災、自然災害の発生と対応に関する経過
- 近年の災害対応事例

消防機関をはじめとする地方公共団体、医療や福祉など関係機関の対応経過及び今後の課題

④ 防災・減災への課題（省略）

⑤ 海外の消防防災事情（省略）

(注) 1 現実の整備に当たっては、上記のすべてを即時に進めることは難しいので、優先順位を考慮して、段階的に進める。

2 関係機関及び有識者による検討・実施体制を設ける。